

# 教えて! Q&A

今日のテーマ

グローバル

## 分散投資について

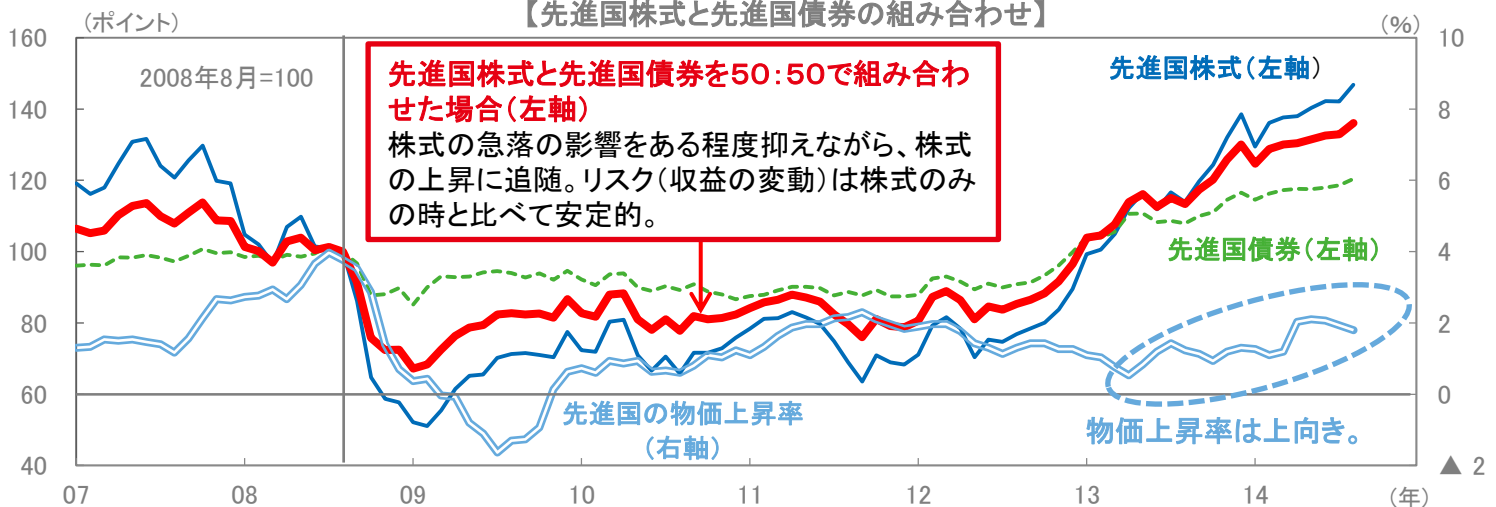
### Q 「分散投資」のメリットは何ですか？

**A** 株式と債券、外貨建て資産などさまざまな資産に投資することによりリスク(収益の変動)をある程度抑えながら、安定的なパフォーマンスをねらう投資手法です。

■ バランス型ファンドなどでは、国内外の株式、債券、リートなど複数の資産に「分散投資」することで、リスク抑制やパフォーマンス向上の効果が期待されます。また積み立て投資などでは、投資のタイミングを「分散」することにより保有資産の元本割れリスクを低減する効果が期待されます。

■ 複数資産への「分散投資」の例では、2008年9月のリーマンショック時の株式などの急落局面で債券とあわせて保有することで、保有資産の下落幅をある程度抑えられました。またそうした「分散投資」を続けることで、その後の株式の上昇がパフォーマンスの向上につながりました。

【先進国株式と先進国債券の組み合わせ】



(注)データは2007年1月から2014年8月。先進国株式はMSCI World。先進国債券はシティ世界国債インデックスI。両指数とも日本を含む、円ベース、トータルリターンベース。2008年8月末を100として指数化。先進国の物価変化率は米国、ユーロ圏、日本の消費者物価指数の前年同月比の平均。(出所)FactSet、Citigroup Index LLC、Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 インフレ局面では株式などへ「分散投資」しパフォーマンス向上へ

■ リーマンショック後の先進国の物価上昇率は、不況から回復する時期には上向いたものの、2013年4月まで低位でした。日本でも「デフレ」環境が続きました。2013年5月以降、物価上昇率が上向くのと軌を同じくし、先進国株式が先進国債券の水準を上回って推移しています。

■ 「インフレ(物価上昇)」局面では株式などの価格上昇が期待されます。日本では、長く続いた「デフレ」環境を脱し、景気回復、賃金上昇、円安などから徐々に「インフレ」環境へ進む見通しが強まってきました。株式や外貨建て資産へも「分散投資」をすることにより、中長期的に安定したパフォーマンスをねらうことも一案かもしれません。

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。